

【Rally Outline】

2017 全日本ラリー選手権 第4戦  
「若狭ラリー 2017」

開催日程：2017年5月19日(金)～5月21日(日)  
開催地：福井県おおい町 近郊  
主催：モータースポーツクラブシンフォニーオブ京都  
SS総距離：81.70km (SS数：14)  
総走行距離：451.54km  
路面：ターマック(舗装路)  
天候：Day1) 晴れ、Day2) 晴れ



2月の開幕戦以来となる本州での全日本ラリー選手権、第4戦は福井県おおい町をホストタウンとする「若狭ラリー2017」が開催された。

昨年もこの大会にJN2クラスで参戦して3位表彰台を獲得している山本悠太は、ステージベストを複数回奪う快走。

惜しくもトップには一步届かなかったが、終盤に見事な追い上げを見せて、昨年よりも順位を上げて準優勝に輝いた。

■Driver Profile

山本 悠太 =Yuta Yamamoto=

1990年、愛知県生まれ。両親がダートトライアルを行っていたことからモータースポーツが身近な環境で育ち、18歳で免許を取得して競技に参戦。2013～14年に全日本ダートトライアル選手権でチャンピオンを獲得した後、ラリーへと転向。TGRラリーチャレンジを経て全日本選手権へ参戦する。

■Co-Driver Profile

藤田 めぐみ =Megumi Fujita=

福岡県生まれ。若手から大ベテランまで、様々なドライバーとコンビを組んで全日本から地区戦までを戦ってきた。

2014年の全日本選手権、JN2クラスでチャンピオンを獲得している。



【Day1 =20.May.2017=】

ハイスピードなロングステージで構成される前戦の久万高原に対して、第4戦の若狭はテクニカルな要素の強いステージでの一戦。2日間で14本のSS(スペシャルステージ、合計81.70kmで競われる本大会は、今年も3年目となる福井県のおおい町をホストタウンに開催された。

海辺のリゾートホテル「うみんぴあ大飯」を拠点に、初日は8本のSSを走行。「Furusato(9.40km)」はこの日に3本を走行、テクニカルな要素の強いステージである。「Gonami(10.03km)」は大会最長のステージで、峠を超えるルート。頂上で県境を超え、フィニッシュは京都府南丹市だ。「Sekiya(4.02km)」は舞鶴若狭自動車道建設工事のために作られた道で、ここは短いながらも三次元的でチャレンジングなステージ。この「Sekiya」は、Day1に1回、Day2には2回を走行する。そしてギャラリーステージとしておおい町総合運動公園に設けられたのが「PlayPark(1.03km)」、野球場の周りを走るショートステージとなり両日各2本ずつを走行する。このほか、Day2では「Furusato Reverse(8.63km)」を設定、Day1の逆方向に走るFurusatoは終盤がタイトで急な下りが続き、攻略が難しい。



山本悠太／藤田めぐみ組が駆る「Sammy☆K-one☆ルプロス YH 86」、山本は昨年の若狭も参戦しており大半のステージは昨年同様となっていることから、好走に期待が集まる存在の一人。19日(金)の夕方には、おおい町総合運動公園でセレモニアルスタートが催され、多くのファンや町民から声援を受けて戦いがスタートした。

ラリーウィークを通じて好天に恵まれた若狭地方は、連日最高気温が30℃近くにまで上昇する陽気となった。そんな中、20日(土)の7時53分に1号車がオープニングステージをスタート、ゼッケン19をつける山本／藤田組もSS1「Furusato 1」から果敢に攻めていくが、タイム的には伸び悩んで3番手。続くSS2「Gonami 1」も3番手であがり5.3秒差のクラス3番手で1回目のサービスイン。ここでダンパーの調整などを行い、戦いはセクション2へと進む。

しかし、リピートとなるSS3「Furusato 2」では4番手タイムに留まり、ここまででトップからのビハインドは11.9秒に拡大。同じ足回りを装着する2番手のライバルに対しても11.7秒差をつけられてしまった。やや劣勢かと思われるところだったが、続くSS4「Gonami 2」ではステージベストを刻んで反撃の狼煙をあげると、SS5「PlayPark 1」も制してトップとの差を7.6秒に詰めた。さらにこのSS5でライバルが1台戦列から消え、山本組が入れ替わって2番手となった。

SS5を終えて2回目のサービスで、さらにセッティングを調整。翌日もリバースで走行する「Furusato」に照準を絞った結果、セカンドベストながらSS6「Furusato 3」は1回目の走行より3.3秒のタイムアップを果たした。SS7「Sekiya 1」もセカンドベストとなったが、ここではトップのライバルを上回るタイムをマーク。Day1最終のSS8「PlayPark 2」を再びベストであがり、トップから7.5秒差の2番手で初日を終了した。

【Day2 =21.May.2017=】

トップにどこまで迫れるか、注目の Day2 オープニングは SS9「Furusato Reverse 1」。しかし、ここでライバルが猛チャージを見せて山本組はセカンドベストながら 5.6 秒遅れを取り、ビハインドは 12.2 秒へと拡大。万事休すかと思われたが SS8「Sekiya 2」で昨日に続いてライバルを上回るタイムでベストを刻むと、SS11「PlayPark 3」ではこのギャラリーステージで 3 回目となるベストを叩き出して、観戦するファンに速さをアピールした。

30 分のサービスをはさんで残るステージは 3 本、合計距離は 13.68km。トップとの差は 10.4 秒、キロ 0.8 秒という差はライバルのポテンシャルからして逆転するのは容易ではない。しかし、ここからプレッシャーをかけていけば、果たして経験値に勝るライバルと言えども、この先どのような展開になるかは分からないのでチャンスは十分に残されている。



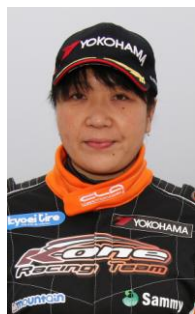
SS12「Furusato Reverse 2」、1 回目は負けてしまったこのステージで山本は渾身の走りを見せて 0.8 秒差のベストを奪取。さらに SS13「Sekiya 3」も制してこのステージを全てトップのライバルより速いタイムであがった。

締めくくりとなる「PlayPark 4」はセカンドベスト、じわじわと差をつめていったが最後は 8.9 秒届かず。それでも 2 位表彰台と「PlayPark」の 4 回合計タイムがクラスごとに最も速かった選手に贈られる Sammy 賞を獲得した。



## ■Driver Comment

多くの人々が期待して動いてくれることで自分が走れているので、その人々のために勝ちたい、という思いを抱いての参戦でした。車は足を仕様変更して前回とはまったく違う動きになっているのですが、これが僕の運転スタイルの範疇にかなり入るようになりました。我慢してきた走りから攻める走りができるようになって、いくつかのステージベストで結果に繋がりました。暑さも厳しいラリーウィークとなりましたが、車内で「暑い、暑い～」と言いながらも、最後まで集中力を切らすことなく走れましたね。次のモンレーは雨が降るととても難しいので、天気はどうなるのか気になりますが、残っているひとつ上の順位を目指して頑張ります!!



## ■Co-Driver Comment

前戦の久万高原では小さなミスが多かったので、特に似たようなコーナーが連続するときのペースノートリーディングに注意しながら戦いました。「Sekiya」のステージは優勝したライバルよりも 3 回ともタイムが上回りましたが、あのステージは昨年まで別のドライバーと参戦していた経験上、とても難しいと思っていましたが、今回は上手くタイミングをとれました。次のモンレーでは、各デイのオープニングからタイムを出して行けるように頑張ります。